

# 特集：ロシアの開発政策：国際関係、政策策定、地域開発

ERINA 調査研究部研究主任

志田仁完

ロシア政府は、プーチン大統領の指導の下で、経済発展政策を遂行してきた。この発展戦略の背景には、国際情勢の変化がある。周知のように、ロシアは、2010年代を通して、欧州のエネルギー需要の低迷、資源価格の低下、ウクライナ紛争に関連した国際関係の悪化といった様々な問題に直面し続けている。これらの問題の結果として、また資源依存経済の構造的な問題によって生じた経済的な低迷を打破し、長期的な経済成長を促進するために、ロシアは、経済政策の重心を欧州からアジア太平洋地域へとシフトさせる「東方シフト」や「アジア回帰」と呼ばれる政策を展開している。また、この国際戦略を進めていくうえで、地政学的な重要性をもち、ロシアとアジア太平洋地域を接続する地域として重要なロシア極東の開発を重視してきた。アジア重視の国際経済政策と極東地域開発の両輪からなるロシアの長期的な経済発展戦略は、今どのような状況にあるか。今号のロシア特集は、この問題に取り組んでいる。この問題に取り組むにあたって、異なる観点からロシア経済の現状を分析した3本の論文を収録した。

1本目の論文は、ロシアの東方シフトの現状に関わるものである。2020年以降に

おける新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、ロシアの国内外のあらゆる側面に大きな影響を与えている。国内では、ロックダウンによる経済活動の停止があり、国際面では、対外経済関係の中断がある。これらの状況は、世界経済や社会の存立の前提条件を変化させ、「ニューノーマル」と呼ばれる新しい状況を生み出そうとしている。また、ポストコロナをどう生き抜くかという問題も世界の人々に突き付けられている。そしてこのことは当然ロシアの経済発展の現状にも影響を及ぼすと考えられる。国際問題研究所・伏田寛範研究員は、このような新しい状況が、ロシアの東方シフトにどのように影響するか、またそれが極東地域の経済発展にどのように関係するのか、に関して現状分析を行うとともに、その将来を展望している。

2本目は、ロシアの経済発展の「政策」はどのようなものであるか、という根本的な問題に取り組んだ論文である。ロシアの戦略や政策はどのようなものであるか、という問題は単純なようで、単純ではない。同じような名称と内容をもつ戦略文書やプログラム文書が複数存在するからである。そしてその内容はたびたび変更されている。今号の特集において、ロシアの開発政策の現状を分析するにあたって、なによりもま

ず重要なことは、そもそもロシアにはどのような計画があるのか、それがどのような体系にあるのか、ということをきちんと理解することである。ERINA 調査研究部・新井洋史部長・主任研究員は、2000年代以降におけるロシアの長期戦略がどのような文書から成り立っているのか、それぞれがどのような関係にあるのかについて、全般的な状況をつまびらかにし、さらに、交通インフラの開発に関する政策文書を具体的に分析している。

最後に、3本目の論文として、私自身によるロシアの極東地域開発に関する現状分析を収録した。この論文の基本的な問いは、極東地域開発のツールとして導入された「特区」政策は有効に機能するか、というものである。ロシアでは、過去30年間に、幾度となくさまざまな特区制度が実施され、失敗を繰り返したという歴史がある。2010年代に導入された極東特区政策は、東方シフト政策とあわせて両輪となるロシアの発展戦略の一つである。極東という本来的に開発が難しい地域で、過去に失敗を繰り返してきた特区政策は成功をおさめることができるのであろうか。導入から5年を経た初期の極東特区制度の進展状況を企業経営という観点から分析している。